



当会会員 深田 恭平 (67期) ●Kyohei Fukada

本コーナーでは、一般的な国内法律事務所を飛び出して働く弁護士に、勤務の実態等を紹介していただきます。

1 自己紹介

深田恭平と申します。第二東京弁護士会所属で、修習期は67期です。司法修習修了後、2015年4月に株式会社ローソンに入社しました。入社から現在まで、同社の法務部門で勤務しております。

2 就職の経緯

私は、学部時代、事業会社の講演を聴く機会に恵まれていました。新規事業を始めるきっかけ、新商品の開発秘話、苦労話など、具体的なエピソードを交えた講演はとても刺激的でした。その影響もあり、将来は、事業会社で、新規プロジェクトや重要案件に深く関与できる職種に就きたいと考えるようになりました。職種を模索した結果、法的思考を駆使して、企業の持続的発展を内部から支える「法務」部門に魅力を感じ、同部門への就職を目指すことにしました。事業会社内で、確実に法務部門に配属されるためには、法曹資格を獲得するのが一番の近道だと考え、法曹の道を志すことにしました。

3 就職活動

修習時も、事業会社の法務部門で働きたいという思いは変わらず、事業会社への就職活動に専念しました。修習生専用の企業枠は数に限りがあったため、転職エージェントも利用しました。職務経験なしという理由で書面審査で何度も落とされ、正直、仕事に就けるのか不安な時期もありました。しかし、企業に入ってから mismatches は避けたかったので、自分のこだわり等を整理し、我慢強く、条件に見合う企業に応募し続けました。結果、縁あって、株式会社ローソンへの入社が決まりました。①若手でも新規プロジェクトへの関与が可能で、②海外事業も含めて業務の幅が広く、③弁護士会活動（委員会等への参加）も原則自由という点が決め手でした。

4 業務内容等

次に、ローソンの法務部門および業務内容について簡単にご紹介します。当社の法務の部員は現在、16名で、私が一番の若手となります。法務での通常業務としては、他の会社と同様、契約書の審査・法律相談等を日常的に行っております。当社は「コンビニエンスストア『ローソン』」としてフランチャイズビジネスを展開しているので、店舗（加盟店）との関係を常に意識した審査が求められます。また、各メンバーは、海外、景表法など、分野別の複数のチームに所属し、各々が

専門性の向上に努めています。私は、下請法・独禁法、社内研修、海外等のチームに所属し、日々活動しております。毎回苦勞するのが、社内研修の講師です。小難しい法律用語を用いずに、実際の業務ではどういうところに気をつければよいのかといったポイントを受講者に理解してもらうことを目標にしております。言うは易しですが、そのような研修をするためには、関連法令の調査だけでなく、当該部署の業務の実態も把握しなければなりません。先輩や各部の担当者に不明点を教えてもらいながら、資料の推敲、研修の練習に努めております。

チームの活動以外にも、例えば、外部のセミナーで、最近の法改正の動きをキャッチアップするなど、業務に関連する知識向上の機会もあります。

さらに、買収案件や、新規ビジネスの検討など、プロジェクト型の規模の大きな案件に携わることもあります。私も、入社1年目から、M&Aの案件を経験させていただきました。振り返ると、契約書の読み込み等を通じた法的リスクの洗い出し（いわゆるデューデリジェンス）、社内各部署への事実確認や、社外のアドバイザーとの細やかな連携など、法務が果たすべき役割は多く、ハードな業務でした。この案件を通じて、M&A案件特有の法律に触れられたことも勉強になりましたが、自社のビジネスの仕組みを掘り下げて学べたことが、非常に有益でした。会社の仕組みを知れば知るほど、通常業務の契約審査1つをとっても、より本質に迫った回答ができるのではないかと考えています。何より、大きな案件になるほど、関与する人員も多く、社内・社外を問わず、法律以外の分野のスペシャリストと話ができるのも、魅力の1つだと思います。

5 弁護士会活動・研修

当社では、前述のように、弁護士会活動に自由に参加できます。どうしても外せない打合せ等がある場合は別ですが、所属する委員

会の部会には可能な限り参加しています。ただ、昼間は社内での打合せが多いので、委員会や研修については、今以上に、夕刻遅めの時間での開催が増えるとより参加しやすいと思います。

また、企業の法務部門と一口に言っても、業種・会社によって経験できない分野が多数あります。私の場合、訴訟や、債権回収などの案件は経験できていないので、その分、外で学ぶ機会をいかに設けるかが課題です。現在は、日弁連のeラーニング等を活用していますが、弁護士会でも、企業内弁護士向けの様々なカテゴリの研修が今以上に増えるとうれしいです。

6 最後に

入社してから2年間で、複数の大きな案件にも関与させていただきました。ハードな側面も多いですが、まさに当事者として、チームメンバーや他部署の人と苦勞しながら案件を進めていく醍醐味は、企業内法務ならではのものだと思います。メンバー全員、熱くなりすぎて、顧問の弁護士の先生に客観的な観点からの指摘を受け、そこで冷静さを取り戻すということもありました。それくらい、「一体感」を持って仕事ができているので、毎日充実しております。

拙文で恐縮ですが、会員の皆様に少しでも企業内部での勤務に興味を持っていただければ幸いです。

■